

国内機関では どんな仕事をしているの？

全国に17カ所の国内拠点を構えるJICAは、
「国際協力を日本の文化に」すべく、幅広い事業を展開している。
日本国内ではどんな国際協力が行われているのだろうか？
今回は、九州7県を管轄するJICA九州を紹介する。



JICA九州

(所管地区：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県)
〒805-8505
福岡県北九州市八幡東区平野2-2-1
TEL：093-671-6311 (代表)
URL：http://www.jica.go.jp/kyushu/



廃棄物管理の研修で、佐賀県伊万里市にある「菜の花エコハウス」を視察する南西アジア地域の研修員たち。菜の花から燃料を作る方法を習う



PROFILE

大学院で地球惑星科学を専攻。地球温暖化、大気汚染の研究を通じて、世界で環境問題が深刻化していることを知り、国際協力に関心を持つ。2006年4月にJICA入職、07年5月からJICA九州。

JICA九州 吉田健太郎

「地域の特性を生かした国際協力を目指しています」

A 北は北海道から南は沖縄まで、全国に点在しているJICAの国内機関は、自治体や企業、大学、NGOの方々と連携しながら、日本の地域が取り組む国際協力を推進しています。

JICA九州は、福岡県北九州市に事務所を構え、総勢30人が勤務しています。所内は、総務、研修業務、市民参加協力の3つの課に分かれており、スタッフ一同、九州地方に国際協力を広めるため、日々奔走しています。

私が担当しているのは、開発途上国から来た研修員に技術指導などを行う研修員受入事業の管理・運営です。九州では、環境モデル都市に指定されている北九州市、熊本県水俣市などを中心に、環境分野の研修が盛んです。そのほかにも、保健医療、情報通信技術、地域開発など、九州7県だけでも、年間約1200の研修が行われています。

研修の立ち上げから報告書の作成まで、一連の業務に携わる中で常に念頭にあるのは、「研修員に多くのことを習得してもらうにはどうしたらよいか」ということ。その答えを得るため、日ごろからできるだけ現場に足を運び、協力して下さる地域の方々、研修員の生の声に耳を傾け、研修計画作りの参考にしています。

また、滞在中に日本の文化を体験してもらうことも大事です。週末に

研修員たちを連れて、地域の祭りに参加したりもします。このような地域と密着した交流も、国内機関だからこそできる国際協力の一つだと思います。

九州に来て1年半ですが、国内機関に配属されて初めて、国際協力は市民の皆さんの力があってこそ成り立つものだ実感しています。今は、地域の人と、つながって、仕事をするごとに、やりがいを感じる毎日です。

九州といっても広く、県、地域によって、特性もさまざまです。これからも、市民の方々とつながりながら、地域の特性を生かした国際協力を広めていきたい。そして、国際協力をしてみたいけれどもどうすればいいか分からない、という人たちのために、国際協力のカタチを提案していきたいと思っています。



JICA九州のスタッフ。事務所には研修施設も併設されている